

2012年9月 秋の沢集中

濁河川 本谷

2012年9月16～17日

メンバー：河崎（L）、三井
山本、平本
塚原、後藤（記）

会創設20周年の記念となる秋の沢集中は、リーダー会が中心となり会員の意見、希望、また今年の積雪状況などから、いろいろな山域が検討され、最終的に濁河温泉集中となった。

私自身 家庭の事情で山行から10ヶ月ほど遠ざかっており、参加が出来るかはっきりしていなかったが、何とか日程を調整し記念となる集中に参加できることになった。

参加するためには、メンバーの足を引っ張ってはならぬということで、泥縄ではあるが2、3週間前からトレーニング開始。其の1 実家近くの公園は斜面に造られ階段数ヶ所があったので、階段の昇り降りを中心にトレーニング開始。其の2 北アの尾根歩き1回。

前日の15日、塚原宅、三井宅を廻り東名、中央道、中津川で降り厳立公園駐車場に12時過ぎに到着。河崎、山本、平本さんの3人は中央道経緯で1時過ぎには到着したようだ。

9月16日（曇り時々晴）

公園で身支度を整え、根尾滝遊歩道入口の駐車場へ林道を走る。遊歩道を150mほど降り濁河川に架かる橋を渡り1時間ほど歩くと根尾滝に着いた。根尾滝は地元小坂町が売出し中の観光滝巡りの中でも姿、形の立派な滝の一つに数えられているようだ。遡行のなかで現れたら、もっと感激し素晴らしい滝と思えたのではないか。



根尾滝 遊歩道がここまで着ている

根尾滝の左を3、40分高巻きし、落口上部に降りた。この先からは平坦な流れとなった。流れの中には、これまで沢で見たこともないようなトコロ昆布を流し、少なくとも美しいとは云えない水藻がゆらゆらと彼方此方に自生している。上流の濁河温泉の影響で、流れに有機物が多いのか？ 先入観かもしれないが、以前遡行した兵衛谷に比べ透明度も低いように思えた。そんなわけでメンバーに積極的な泳ぎは避けたいと云う雰囲気を感じられた

暫く進み10時過ぎに大きな淵が出現。この淵はへつりと泳ぎで越えられそうだが、濡れたくないと云うことで巻いて通過。

直ぐに12mの滝に出る。滝壺まで泳ぎ直攀との記録があるが、左を高巻くことになった。この高巻きに時間が掛かり



大きな淵 濡れるか巻くか思案中



5 mの滝 左を泳ぎ左岩場を登る

4、50分、最後は10mほどの懸垂で、記録にある2段7m滝の上の沢床によりやく降りることが出来た。

12時近く左右を壁に挟まれた5mほどの滝に出る。高巻きするにはかなりの時間が掛かりそう。河崎さんは何とか濡れずに通過できないものかと、左の壁にルートを探すも行く手を阻まれ、ついに泳いで滝壺右手の岩場上がる。私も諦め首まで浸かり10mほどの距離を、へつたり、泳いだりし岩場に這い上がった。流れに浸かったのはこれが最初で最後、寒かった。ロープを出し4人を引き上げ、全員揃ったところで河崎さんリードで滝左の岩場を登る。河崎さん3級の岩場と云うも私にとっては厳しい登りとなった。この滝の通過にも30分以上掛かり、またカムの回収にも時間を要し時刻は13時近くになっていた。



最初で最後 唯一の泳ぎ

14時前に3mほどの小さな滝を濡れぬよう乗り越えると、20、30分ほどで取水堰に到着した。



取水堰の手前 最後の小さな滝

このペースで濁河温泉まで遊行すると、明日の集合時刻 12 時にはとても間に合わないとのリーダー判断で、今回の遊行は取水堰までとなった。堰上流に平坦な河原が在りそうなので、堰から林道に登り 20 分ほど歩く。透明度の低い濁河川の水は呑みたくないとの思いから、林道から濁河川に流れ込んでいる枝沢を選び河原に降った。

左岸にはテン場に最適な平坦な砂地が広がっていたが、今晚の雨の恐れから林道へ直ぐ登れる右岸を今日のテン場とした。晴れていれば左岸は枝沢も近く、流木も多く快適なテン場

今夜の夕食担当、鍋のリクエスト有り。鍋は具材の種類が多く、6 人前なのであれやこれやと選んでいるとなるとかなりの重量となってしまった。そこで具材を減らし 4 Kg ほどにしたが、拳句の果てにメインの鶏肉団子を冷凍庫に入れたまま持ってくるのを忘れてしまった。遊行中のメニューーとして、鍋はあまり適当

ではない。

9 月 17 日 (曇り時々晴)

集合場所の濁河温泉までの 12 Km ほどの林道歩き。11 時前に到着。

今年 最初で最後の沢登り。泥縄トレーニングの効果で、何とかついていくことが出来、メンバーに感謝、感謝 有難うございました。

コースタイム

9 月 16 日

遊歩道入口 (7:40) - 根尾滝 (8:40) -
取水堰 (14:30) - テン場 (15:30)

9 月 17 日

テン場 (7:30) - 濁河温泉 (10:30
~11:00)

地形図 (1/25000)

飛騨小坂、胡桃島、御嶽山

参考まで

(濁河温泉) 名前の由来

引用：ウィキペディア

草木谷と湯ノ谷が (濁河温泉付近で) 合流し濁河川となる地点で、互いの水が混ざり合って白くなることから来ている。もともと、それぞれは透明の水であるが、含有成分が違って、合わさったことで化学反応を起こして白濁する。

よく、濁り湯の温泉だからと思っている人が多い。